



近くて、温かい。山梨英和の学び。
<https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp>

かけはし
2026
vol.55

KAKEHASHI

contents

学長・後援会名誉会長メッセージ	01	学生会紹介	08
後援会長あいさつ	02	紅楓祭実行委員会	08
本学におけるキリスト教教育について	03	学生チャレンジプロジェクト活動報告	09
学生生活について	04	新任教員紹介	11
附属図書館より	05	教員紹介	12
進路情報	06	2026年度後援会総会報告	13
学生相談室だより	07	役員紹介	13
保健室だより	07	2025年度決算／2026年度予算書	14



塚本 俊也

学長 / 後援会名誉会長

「つながる大学」が育む未来

本年度、山梨英和大学では「つながる大学」を学長方針として掲げました。

私は、大学とは知識や技術を身に付けるだけの場ではなく、人と人との出会いや対話を通して、一人ひとりが自らの可能性を見だし、社会の中で生きる力を育む場であると考えています。AIをはじめとするデジタル技術が急速に発展し、世界中の人々と瞬時につながることができる時代となりました。しかし、その一方で、人と人との信頼関係や地域との結び付き、多様な価値観を認め合う力の重要性は、これまで以上に高まっています。

だからこそ、本学が目指す「つながる大学」とは、単に人と人が交流する大学ではありません。学生、教職員、地域、世界、そして保護者の皆様が互いにつながり、そのつながりから新しい価値を創造し、地域社会と国際社会に貢献する人材を育む大学でありたいという願いが込められています。

本学の教育の原点は、少人数教育にあります。学生同士が互いに学び合い、教職員が一人ひとりに寄り添う環境の中で、自分の考えを表現し、相手を理解し、協働して課題を解決する力を育んでいます。学生同士のつながり、学生と教職員とのつながりは、本学ならではの学びの基盤です。そして、「一人ひとりを大切にする教育」は、山梨英和学院が137年にわたり受け継いできたキリスト教の建学の精神そのものであり、「つながる大学」の出発点でもあります。

大学の役割は、学内だけで完結するものではありません。大学は地域社会の一員として、地域とともに歩み、地域から学び、地域へ貢献する使命を担っています。人口減少や少子高齢化が進む山梨県では、地域の活力を維持し、新たな価値を創造することが求められています。本学では、地域活動やボランティア、自治体・企業との連携などを通して、学生が地域の課題を自分自身の課題として考え、行動する機会を積極的に設けています。教室で学んだ知識を地域社会で実践し、その経験を再び学びへとつなげる。この循環こそが、本学の目指す地域共創です。

さらに、「つながる大学」に欠かせないのが、世界とのつながりです。しかし、本学が考える国際化とは、海外との交流だけを意味するものではありません。現在、山梨県でも外国人労働者や留学生、技能実習生など、多様な文化や背景を持つ人々が地域社会の一員として生活しています。国際化は、世界のどこかで遠くで起きていることではなく、私たちの身近な地域で進んでいる現実なのです。

本学では、留学生が学生全体の約15%を占めています。キャンパスでは、日本人学生と留学生が日常的に学び合い、互いの文化や価値観を理解しながら成長しています。こうした日々の交流は、異文化理解を深めるだけでなく、自分自身を見つめ直し、多様性を尊重する姿勢を育みます。世界とのつながりは、海外へ行くことから始まるのではなく、身近なキャンパスや地域の中で異なる文化と出会い、互いを理解することから始まるのです。

本学では、心理学、ICT、グローバルスタディーズなど、それぞれの専門分野を結び付け、多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成を進めています。人の心を理解する力、ICTを活用して正確な情報を伝える力、多様な文化や価値観を尊重する姿勢を育むことは、これからの社会に不可欠な力です。

また、日本は世界でも有数の自然災害多発国です。地震や豪雨、火山災害などへの備えは、日本で暮らすすべての人に必要な知識です。しかし、外国人住民や留学生に対する防災情報や避難情報は、言語や文化の違いから十分に伝わらない場合もあります。本学では、多文化共生と地域防災を重要な教育テーマとして位置付けています。留学生には、日本の地域防災や災害時の助け合いの仕組みを学び、その経験を母国や国際社会で生かしていただきたいと願っています。同時に、日本人学生にも、多文化共生の視点を持ち、国籍や文化の違いを越えて協働し、誰一人取り残さない地域社会を築く力を身に付けてほしいと考えています。

私は、「つながる大学」の本当の目的は、「つながること」そのものではないと考えています。人と人がつながることで新しい知恵が生まれ、地域と大学がつながることで新しい地域づくりが始まり、日本人学生と留学生がつながることで新しい文化や価値観が育まれます。そして、そのつながりから生まれた学びが、地域社会や国際社会の課題解決へと発展していくことこそ、本学が目指す教育の姿です。

そして、この「つながる大学」を支えてくださるのが、保護者の皆様です。大学生活は、学生が大きく成長し、自立へ向かう大切な時期です。その歩みを大学と家庭がともに見守り、ともに支えることで、学生一人ひとりの可能性はさらに大きく広がります。後援会は、大学と保護者を結び「架け橋」であり、皆様からいただく温かいご理解とご支援は、本学の教育活動を支える大きな力となっています。

山梨英和学院は、137年にわたりキリスト教の建学の精神のもと、「一人ひとりを大切にする教育」を実践してまいりました。その歴史は、人と人とのつながりを大切にしながら、新しい価値を生み出してきた歴史でもあります。「つながる大学」とは、この137年の歩みを未来へ受け継ぐ新たな挑戦です。山梨という地域に根ざしながら世界へつながり、世界で得た学びを地域へ還元する。その循環を生み出す大学として、そして人と人とのつながりから新しい価値を創造する大学として、山梨英和大学はこれからも歩み続けてまいります。学生一人ひとりが山梨から世界へ、そして世界から山梨へと未来をつなぐ「架け橋」となれるよう、教職員一同、全力でその成長を支えてまいります。

今後とも、後援会の皆様の温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



飯島 正敏

後援会長

「これから生きてゆく若い人たちへ」

連日の猛暑、酷暑の日々、大自然の大きな変化が、私達の日々の生活を変化している様に感じる毎日です。しかし人間の営みは、途絶えることなく続いていきます。ふと空を見上げると空には照り輝く太陽……。この生命の象徴でもある太陽があつてこそ、人間社会は成り立っているのかと……。そんな思いでいた時に思い出したのは、1970年の「大阪万国博覧会」の「太陽の塔」作者は、誰もがよく周知している芸術家、「岡本太郎」(1911—1996)岡本は、パワフルで個性的人間だったと思います。また、第二次世界大戦時には、陸軍二等兵として中国戦線に出征し戦争の悲惨な状況も経験した人でもあり、晩年はパーキンソン病を患いながらも創作活動を続けた人でもありました。それに関わらず世の中では、いわゆる変人ではないと言われることもあったかと思います。

岡本の著作の中で、彼はストレートで人の心に残る言葉を発信している様に思われてなりません。「誤解されることもできないような貧弱な人間のどこに魅力がある？」この言葉で彼が語るのは、「他人に誤解されるのが怖い」という人間特有の心理のバカらしさであります。実際には、「自分が期待するように他人が自分を見てくれないという嘆きに過ぎない」というのです。確かに人は、自分が他人からどう見られているか、常に心の中で考えているように思えます。この私もその一人であるのは確かです。しかし、若いこれから生きてゆく人達には、何事にも挑戦して欲しいし、失敗を恐れずに自分の信念を他人に左右されずに行動して欲しいと思います。「どう見られているかじゃなくて、これをやりたいから、やる。やりたいこと、やったこと、それが自分なのだ」とも言っています。

私の人生を振り返ってみた時、この考えの様な行動を常に変換してきたかと言いきれる訳ではありません。時には周囲の目を気にしたり、行動をためらったり、また中断して立ち止まったりの連続だった様に思っています。年齢を重ねるごとに、あの時、この時と思い返すことがたびたびあります。「岡本太郎」の一生の様に悔いなく、己の信念のままに生きられていたなら、私の人生そのものもまた違ってきたのかもしれない。

これから生きてゆく若い人達には、若い時だからこそ持っているみなぎる情熱をその人生の中で開花させて欲しいと思っています。

若いから挑戦できること、思い悩むこと、そのすべてがこれからの人生そのものだと思うのです。それには、大学生活を通じて自分の人生の目標に共感してくれる新しい友人を作り、先生方のご指導の下、その目標を実現に努めてみてください。皆様のご活躍を祈念しております。

末筆ではございますが、後援会の皆様のご健勝とご多幸、山梨英和大学の益々のご発展を祈念いたします。

愛され、愛すること

人間文化学部 人間文化学科
宗教主任・チャペルセンター長
准教授 高 誠

歴史家リン・ホワイトは、近代西洋の科学が、キリスト教的な世界観を一つの土台として形づくられてきたと論じました。

科学技術や近代的な制度は、私たちの生活を便利で豊かなものにしてきました。しかし、それらは、便利さや合理性だけを求めて発展してきたわけではありません。その根底には、神から与えられた知識や能力を用いて、人と社会に仕えようとする信仰があり、同時に、人間をかけがえのない人格として尊ぶ倫理がありました。

その背景にあるキリスト教的人間理解を見失うと、人格の尊厳が何に支えられているのかも、次第に見えにくくなってしまいます。

キリスト教は、人間を知識や能力だけで捉えません。聖書には、「わたしの目にあなたは価高く、貴く わたしはあなたを愛し」(イザヤ書43章4節)と記されています。人は神の姿にかたどって創造され、神から愛されるために生まれてきた存在である、と聖書は語ります。

だからこそ、人間の価値は、成績や能力、効率や成果によって決まるものではありません。一人ひとりの命には、その人がその人として生きる意味があり、そこに人格の尊厳の根拠があります。

現代社会では、タイパ、コスパ、エビデンスといった言葉が頻繁に用いられます。限られた時間や資源を有効に活用し、根拠に基づいて判断することは大切でしょう。しかし、人間のすべてを、そのような尺度だけで捉えることはできません。

人は迷い、立ち止まり、ときには失敗します。すぐに成果が現れなくても、遠回りをしながら成長することがあり、言葉にできない痛みや不安を抱えることもあります。そのような一人ひとりの歩みを、役に立つかどうか、効率がよいかどうかだけで判断するのではなく、かけがえのない人格の営みとして受け止めることが大切なのではないのでしょうか。

AIがますます発達する時代において、知識の量や情報処理の速さだけで競えば、人間はAIに及ばなくなるかもしれません。だからこそ私たちは、人間とは何か、人格とは何か、命にはなぜ意味があるのかを、これまで以上に問い続けなければなりません。

イエス・キリストは、「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネによる福音書15章13節)と語られました。そして、その言葉のとおり、十字架を通して人間を諦めることなく、人間の弱さや過ちを知りながらも、最後まで愛し抜かれました。その愛は復活を通して、死や絶望によっても失われることのない神の愛として示されています。

チャペルは、この神の愛を確かめ合う場所です。自分の命が大切にされていること、そして隣にいる人の命も同じように大切であることを、聖書の言葉と祈りを通して受け止める場所でもあります。

本学の建学の精神は、「敬神・愛人・自修」です。神を敬い、人を愛し、自らを修めるといふこの精神には、山梨英和が137年の歩みの中で受け継いできた、大切な思いが込められています。

教職員は、それぞれ異なる立場や役割を担っています。それでも、学生一人ひとりを成績や能力だけで判断せず、かけがえのない人格を持つ存在として受け止めようとする思いは、山梨英和に受け継がれてきたものではないのでしょうか。私は、その思いを、聖書の言葉にちなんで「愛」と表現しています。

山梨英和で学ぶ学生たちには、やがて社会に巣立つとき、学んだ知識や身につけたスキルを用いて社会に貢献するだけでなく、この学び舎で愛され、愛することを学んだ経験を土台として、効率や成果だけを求める社会のあり方を乗り越え、他者の命と人格、すなわち、その人がその人として生きる意味を生かす者になってほしいと願っています。

このような人間理解は、ASI(超人工知能)の実現に向けて加速するAI時代において、人間の尊厳を改めて位置づけるために、これまで以上に必要とされるものではないのでしょうか。そのような人間へと成長していく学生たちを支えることこそ、山梨英和のキリスト教教育に委ねられた大切な使命であると考えています。

続・学生のための環境づくり

副学長・人間文化学部長 難波 道弘

前々回の原稿で、「学生が学び合う環境をつくる」ための取り組みとして学修サポートデスクを、前回は「学生が成長できる環境をつくる」ための場として学生チャレンジプロジェクトを紹介しました。

微力ではありますが学生が主役である場（そもそも大学は全体がそうあるべきだと考えますが）をいかに提供できるかを常に考えています。そのような状況の中、昨年度まで本学で学食・売店を運営していた業者が撤退するという事態に見舞われました。学食の維持は多くの大学が抱えている課題であり、本学も例外ではありません。現時点でお弁当やパンの販売、キッチンカーも誘致して対応にあたっていますが、学生の皆さんのニーズに十分応えられていない現状であると理解しています。

学内では学食検討ワーキンググループを立ち上げ、私もそのメンバーに加わることになりました。まずは学生に緊急アンケートを実施し、昼食をどのようにしているか、今後どうしてもらいたいかなどの調査を行いました。実際に多くの学生が不自由を感じており、大変申し訳なく思っています。また単に食欲を満たすだけでなく、コミュニケーションの場としての学食を求める意見も多く寄せられ、今後の検討を行うにあたり大変参考となりました。

現状ですが、まずは環境にも配慮したウォーターサーバーを学内に2台設置しました。お湯も給水可能となっております。売店に関しては自販機でお菓子やカップラーメンを購入できるオフィスコンビニ（ポストマート：サントリー）を導入しました。学食についても検討を続けて

おり、できるだけ早く何らかの形で提供できればと考えております。学生の福利厚生に直結する話でもありますので、後援会の皆さまにご理解・ご協力をお願いすることもあるかと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



小規模校ならではの大学院教育

大学院人間文化研究科長 佐柳 信男

本学大学院は、臨床心理学専攻の修士課程に特化した臨床心理士と公認心理師の養成機関です。40年近くの歴史がある民間資格の臨床心理士と、7年前に国家資格として作られた公認心理師の資格保有者は、精神病院、学校、福祉施設など様々な分野で働いており、心の問題の治療や生活の質の向上のために活躍しています。

本学大学院を修了すると、臨床心理士と公認心理師の受験資格が得られ、本学修了生の現役合格率はどちらも毎年全国平均を上回っています。修了後の進路は、県などの自治体の専門職員、精神科病院や福祉施設の専門職、スクール・カウンセラーなど多様です。

山梨県内唯一の心理学の専門職養成機関であり、さらには教育や進路の実績も積み重ねがあることから、県外からの受験も多く、年によっては入学選抜の倍率が3倍に達するなど、狭き門をくぐり抜けた目的意識の高い学生が多く集まっています。入学者のうち、本学出身者と他大学出

身者の割合は同じ程度で、社会人入学も多いという特徴があります。

大学院の2年間で必要な知識や技術を身につけるためには多くの授業や実習が必要で、学生は多忙を極めます。どの授業でも多くの課題が出されており、さらに修士論文の準備も進める必要があるためですが、学生の感想を聞くと、充実感にもじみます。これから夏休みは集中講義も多く、たくさんの授業と演習に加えて学内実習も始まり、2年生になると学外実習と修士論文研究のための調査と、論文の執筆が続きます。このように怒濤の、濃密な2年間を過ごす中で、大学院生たちは知識や技術を身につけるだけでなく、実習で様々な事例に触れたり、仲間で支え合ったりしながら、人間的にも成長していきます。山梨県と日本の心の健康を支えていく頼もしい学生たちのこれからをぜひ応援してください。

人をつなぐ「居場所」としての図書館

附属図書館長 佐柳 信男

大学の図書館の重要な使命といえば学修と研究のサポートですが、本学では学生同士、また、学生と教員をつなぐことで「居場所」としての機能も強化しています。図書館が安心できる居場所となることで、学修と研究に限らずでなく、大学生活全般も充実することが期待できます。

新入生の大学生活への適応をサポートすることを目指し、今年は前期の早い段階で1年生を対象とした図書館オリエンテーションを2度行いました。1度目は基礎ゼミナールごとに図書館内を案内して利用できる施設を見てもらい、2度目は全クラスを対象に、蔵書の検索や予約などの図書館システムの使用方法について学びました。おかげで、多くの1年生が図書館を利用しています。

図書館では「推し本読書会」を定期的に行っています。今年度は6回予定されており、「辻村深月」「ホラー」「芸術」など、その回ごとのテーマに沿った愛読書を持ち寄って語り合います。

司書課程の学生が多く参加する学生協働活動サークルLIKE(ライク)は、学内外で大活躍していて、「居場所としての図書館」と地域連携に重要な役割を果たしてくれています(学生チャレンジプロジェクトのページもぜひご覧下さい)。LIKEのメンバー以外にも参加を呼びかけた5月の図書館Iコモンズでのお茶会には多くの学生と教職員が参加し、親睦を深めました(図1)。また、毎年8月の甲州市立勝沼図書館が主催する小学生向けの夏休み読書感想文講座と、12月の山梨市立図書館の子ども向けクリスマス会へLIKEの学生が講師として参加することが恒例となっていて好評を博しています。LIKEはやまなし読書活動推進事業実行委員会のサポーターとしても活動していて、県の読書推進活動イベントにもメンバーが多く参加しています。

3年前から始まった「学修サポートデスク」は軌道に乗り、学生の図書館への呼び水となっています。図書館入り口のKコモンズで担当の教員や先輩に真剣な眼差しで相談したあとに続けて談笑する姿をよくみかけます。サポートデスクを担当する教員や先輩からアドバイスをもらい、そのまま図書館の学習机で課題と向き合う学生も目立ちます。

司書課程のある本学では、司書課程のサポートと、司書課程と関連した地域貢献や地域連携活動も附属図書館の大切な使命です。毎年恒例の県外図書館見学会は今年2月に開催され、約25名の学生が東京の武蔵野市立図書館「武蔵野プレイス」を訪れました(図2)。武蔵野プレイスも利用者同士をつなぐことがコンセプトの図書館で、参加学生は図書館という施設の可能性について考えを深めている様子でした。また、6月には小学校と中学校の図書館でそれぞれ司書として勤務している卒業生を迎えた「司書座談会」を開催し、約20名の学生が先輩たちの仕事について熱心に聞き入っていました(図3)。

最後に、山梨英和大学後援会から設備充実についてのご寄付を本館にいただきました御礼を申し上げます。引き続き大学図書館ならではの機能や役目を果たしつつ、学生たちがより積極的に訪れたい、学びたいと思ってもらえるよう、引き続き全力で学生たちを支えていきます。



図1 LIKE主催のお茶会



図2 武蔵野プレイス見学会



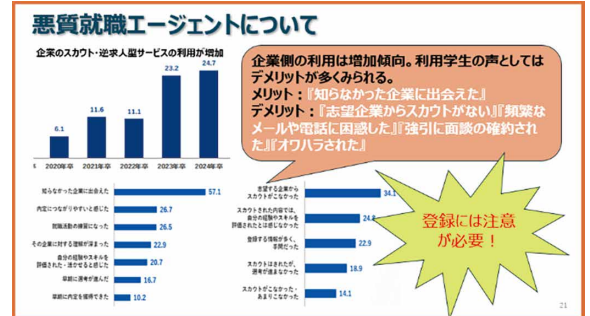
図3 司書座談会

本学の進路支援とキャリア形成支援

学生・キャリア支援センター 進路部次長 宮川 仁

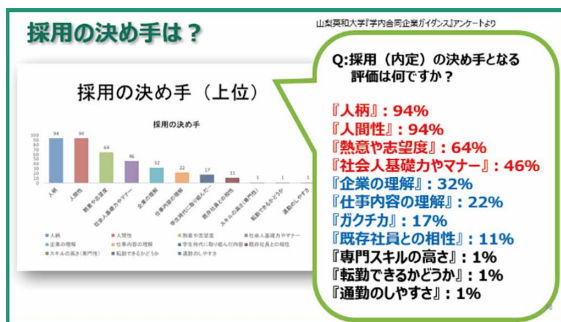
▼大学生の最近の就職事情

ここ数年間、大学生の就職事情は超売り手市場が続いていますが、学生たちはインターンシップや早期選考といった社会の煽りに流されながらも真摯に就職活動に取り組んでいます。情報が氾濫し、就活に関する様々な情報が簡単に手に入る現代、私共、保護者世代のように、足で稼ぐ(何社も何社も会社説明会に参加し、選考を受ける)就職活動ではなく、WEB・オンラインやAIなどを駆使した活動がもてはやされています。そうした中で、新卒の就職活動支援をビジネスとする業者も急増しています。「就職(新卒紹介)エージェント」と呼ばれるスカウトサイトに登録すると、様々な企業から選考のオファーが来るという時代です。しかし、ここには注意が必要です。それは、ブラック企業からのオファーやエージェント間での個人情報の横流しなどが横行しているということです。また、AIを駆使した就職活動も今や社会問題になっています。履歴書やエントリーシートもAIを使って簡単にできてしまいます。しかしその反面、学生は主体性を失い、自分軸や自己概念も曖昧な就活生を生み出し、就職先が決まってから「こんなはずではなかった・・・。」というミスマッチを起こします。採用側も然りです。結果的に、内定辞退や早期離職に繋がってしまうという悪循環が起っています。



▼学生の就職意識の変化と企業の採用の決め手

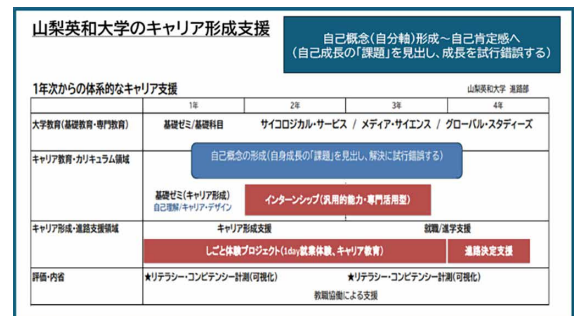
大学生が職業に求める1位は「楽しく働きたい」、2位は「個人の生活と仕事を両立したい」、3位は「人の為になる仕事をしたい」、そして、最下位は「出世したい」という調査結果があります。(マイナビ2025年卒大学生就職意識調査)とにかくライフワークバランスと言う学生が増加しています。一方で企業が考える“採用の決め手”の1位は「人柄」・「人間性」、2位は「熱意や志望度」、3位は「社会人基礎力やマナー」と続きます。就活生に求めるものは



“専門的なスキル”ではなく、“基礎的な知識や態度”にあるように思えます。(本学学内合同企業説明会参加企業のアンケート)学生に期待するスキルの1位は圧倒的に「コミュニケーション能力」、2位は「基本的なPCスキル」、3位は「言語化する能力」で、ここでも汎用的能力を求められることが分かります。(同アンケート)学生が就職先に求めるものと採用側が学生に求めるものにギャップが生じていることが分かります。

▼進路支援とキャリア形成支援

本学での進路支援で最も大切にしているのは、「主体的(自律的)なキャリア発達」です。その基本は、キャリアコンサルタントや企業の人事採用の経験者という専門家を配置し、個々の学生に寄り添う支援です。本学の進路支援の特徴としては、①体系的なキャリア形成支援です。基本的な軸は「自己概念の確立」→「内的キャリアの醸成」→「自発的なキャリアデザイン」→「自ら望む進路選択」です。次に、②専門人材による高付加価値な支援です。キャリアコンサルタントやインターンシップ専門人材など、キャリア支援の専門技術を修得したスタッフが支援致します。最後に、③「1on1キャリア・コンサルティング」です。通常は予約制にて相談を受付けていますが、インターンシップに参加する2・3年生や就職活動が始まる3年生の秋、4年生の春などには定期的に“全員面談(個別面談)”を実施しています。このような支援を通じ、学生たちの主体性を育み、健全な職業観やキャリア観を醸成しています。



願うこと、受け止めること

学生相談室では毎年この時期、相談室の前に笹を立て、短冊を置きます。すると、学生たちは実に様々な願い事を熱心に書き、笹に結んでいきます。七夕までの1週間くらいの間に短冊はどんどん増えて、笹は少しずつしなっていきます。また、学生たちは他の人たちがどんな願いを書いたのかをよく読んでいます。自分の願いも人の願いも、どちらも楽しんでいるのが伝わってきます。そうして楽しむことができるのは、お互いの喜びや悩みに共感する部分があり、願いの向こうに人の存在を感じるからではないかと思います。

しなる笹を見ていると、ご家族として、保証人として、学生たちに向き合ってこられたご苦労が思い起こされます。実際に学生相談室では、お子さん自身の期待や要望を受け止め、その実現に向けて見守ったり関わったりと、心を砕いておられるご家族の様子をうかがうことがよくあります。学生の話から間接的に聞こえてくることもあれば、ご家族と直接お話をさせていただくこともあります。学生生活の在り方がひと昔前とは変わり、忙しくゆとりの少ない生活を送る今の学生たちを見ながら、家族として、大人として彼らを信じ、大学で試行錯誤する機会を物心両面から支え続けることは、簡単なことばかりではないと痛感します。

しかし、願い事が書かれるということは、そう願う自分を受

学生相談室 主任カウンセラー 設楽 友崇

け止めてくれる誰かの存在を信じているからだと思います。それは、学生たちがここまで生きてきた中で、友人、ご家族、あるいは社会との間に信頼関係を培ってきた証だと思えます。私自身もひとりのカウンセラーとして、本学教職員の一人として、学生たちの思いを受け止め、対話し、信頼に足る存在でありたいと思います。また、いずれは学生たちにも、社会の中で誰かを受け止める存在に成長してほしいと願っています。

ご家族、保証人のみなさんと協力し、彼らの成長を応援できればと思います。学生との関わり方でお困りのことが何かありましたら、ぜひ学生相談室をご利用ください。一緒に考えましょう。



直通電話 / 055-222-5640

メール / gakusei-soudan@yamanashi-eiwa.ac.jp



学生の成長を支える「安全地帯」として

保健師 雨宮 加奈

キャンパスの軒先で育ったツバメたちが、力強く空へと巣立っていく季節になりました。旅立つ若鳥たちを見守るような温かな気持ちで、学生たちの成長を日々見守っております。

体調が悪いときだけでなく、困ったときはもちろん、そうでないときも誰でも気軽に利用できるのが本学の保健室です。そのため、保健室の来室者は増加傾向にあります。これは学生たちが一人で悩みを抱え込まず、「まず相談できる場所」として足を運んでくれている証でもあります。保護者の皆様からのご相談をいただく機会が増えたほか、「何かあったら保健室へ行きなさい」とお子様に伝えてくださることも増えており、大変心強く感じております。

また、来室者増加の背景には、保健室内に設置された「障害学生支援室」の存在もあります。本学では従来から配慮要望制度を運用し、授業担当教員と連携してまいりましたが、2024年度からは同支援室の総合窓口が保健室内にあることを明確にしたことで、大学生生活や修学上で困難を抱える学生への多角的なサポートが可能となりました。一人ひとりの状況に応じた、よりきめ細やかな修学支援体制が整ってい

ます。(※詳細は下記QRコードまたは大学ウェブサイトよりご覧いただけます)

保健室は、学生たちにとっての「安全地帯」でありたいと考えています。本学の強みである「教職員と学生の距離の近さ」を活かし、日常の些細な変化(表情の曇りや欠席の増加など)に教職員がいち早く気づいて保健室や支援室等へと繋ぐ、アットホームな連携体制を築いています。

相談内容は身体の不調から人間関係、将来への不安まで多岐にわたりますが、来室者が増えても一人ひとりと丁寧に向き合う姿勢は変わりません。むしろ、多くの学生が本音を漏らしてくれるからこそ、大学全体で最適なサポートを提供する架け橋になれると考えています。

学生が安心して自分を模索し、健やかに成長できるよう、これからも「近くて、温かい」距離感で一人ひとりに寄り添い、社会へ羽ばたくその日まで支え続けてまいります。



【障害学生支援室の情報】

学生会

学生同士のつながりをつくる学生会

学生会会長 伊東 渚

私たち学生会は「学生同士のつながりをつくる」ことを大切にしながら活動しています。学生の皆様からいただいた学生会費を活用し各サークルの予算管理や学生会主体のイベント企画・運営などを中心に行なっています。2026 年度は会計・企画・書記・広報の 4 つの部署で構成され、約 35 人で活動しています。

学生会の役割はイベントを開催することだけではありません。学生同士が交流し、新しい友人との出会いやサークル活動への興味、大学への愛着を育むきっかけをつくることも、私たちの大切な役割だと考えています。そのため、週 1 回の定例会議では、これまでのイベントで挙げた改善点も踏まえながら意見を出し合っています。「主催する学生会と参加する学生の双方が満足し、楽しめるイベントにするにはどうすればよいか」を常に考え、企画・運営に取り組んでいます。今年度は、まず前期では 4 月に新入生歓迎行事としてサークル紹介やサークルブースなどを行い、7 月には七夕フェスティバルを行いました。七夕フェスティバルでは吹奏楽部をはじめとする音楽系サークルに演奏の依頼をしてイベントを盛り上げてもらったり、和装同好会にご協力いただき、学生会役員だけでなく一般の学生も浴衣などを着用しながら一日を過ごし、学内全体で七夕らしい雰囲気を楽しみました。

今後は紅楓祭での出展やハロウィンイベント、焼き芋イベント、クリスマス祝会など季節に合わせたイベントの開催を

予定しています。いずれも昨年度の経験を生かし、より多くの学生に楽しんでもらえるイベントとなるよう準備を進めています。学生会活動は、多くの学生や教職員の皆様のご理解とご協力によって支えられています。企画を実現するまでには準備や運営など多くの苦労もありますが、その分、イベント当日に学生の笑顔や楽しそうな様子を見ることが私たちの大きなやりがいとなっています。

最後に、これからも学生一人ひとりの声を大切にしながら、誰もが安心して充実した大学生活を送れる環境づくりに努めてまいります。学生同士のつながりを深め、新たな挑戦や交流が生まれる大学を目指し、役員一同力を合わせて活動してまいります。今後とも学生会をよろしくお願いいたします。



紅楓祭実行委員会

「誰もが楽しめる学園祭を」

紅楓祭実行委員会委員長 望月 遥哉

私たち紅楓祭実行委員会は 10 月 31 日(土)、11 月 1 日(日)に行われる紅楓祭の企画・準備・当日の運営を行なっています。ピンゴ・新企画・芸能・広報・縁日の 5 つの部署に分かれており、それぞれの部署がメインステージの企画や屋台、スポンサー集めなど様々な活動を行なっています。総勢 48 名と、本学の中では一番規模が大きい団体です。メンバー全員で協力しながら、苦勞をすることもあります。準備を現在進めています。

昨年の紅楓祭では「千紫万紅」(せんしばんこう)というテーマのもと、例年以上に多くの方々にご来場いただき、制限のない活気ある二日間を作り上げることができました。

ステージ前を埋め尽くす観客の皆さまの笑顔は、今も私たちの胸に鮮烈に残っています。

それぞれが個性を輝かせたあの感動を経験したからこそ、私たちは今年、さらに進化した紅楓祭を皆さまにお届けしたいと強く感じております。

さて今年のテーマは「楓煌」(ふうこう)に決定しました。「楓」は本学の象徴であり、「煌」は火が勢よく燃え上がる様子や、輝きを意味する言葉です。本学を象徴する楓のもと、一人ひとりの個性が最高潮に色づき、それらが集まることで大きな光となり、地域を照らす存在でありたいという想いをこの二文字に込めました。楓が一本一本異なる色に染まるように、学生一人一人の個性や想いが集まり、紅楓祭という場で大きな「煌めき」を生み出す、そんな学園祭を目指してまい

ります。

また、山梨英和大学だからこそ実現できる、私たちにしか創り上げるることのできない紅楓祭にしたいと考えております。昨年度、先輩方が築き上げてくださった紅楓祭をさらに発展させ、より多くの笑顔と感動にあふれるものにしたいという思いから、本テーマを掲げました。

最後になりますが、開催にあたり日頃より多大なるお力添えをいただいております多くの皆さまに実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。今後とも紅楓祭実行委員会をよろしくお願いいたします。



学生チャレンジプロジェクト

ひとりでは得られなかったもの

4年 森田 七星

私は2025年の夏、アジアキリスト教教育基金(ACEF)が主催するバングラデシュスタディツアーに参加し、貧困や災害によって十分に教育を受けられないこどもたちと出会いました。帰国後、自分の身の回りの人たちをはじめ、一人でも多くの方にバングラデシュのこどもたちの状況を知ってもらいたいと考え「学生チャレンジプロジェクト」を通して、バングラデシュを伝える企画を立て、バングラデシュ出身の学生と5つの活動に取り組みました。

夏のスタディツアーで撮影した写真の展示、女性たちが作った手工芸品を紹介するバザー、社会課題や現状をまとめた冊子の作成と配布、サイクロンの被害にあった校舎再建のための募金、チャペルアワーでの奨励です。

80枚の写真を飾り、手工芸品を手にとってもらうことで、バングラデシュを知っていただく機会を作ることができました。また山梨日日新聞の取材を受け、この活動が新聞に掲載されたことから、広く地域の方に応援していただき募金につながりました。集められた支援金は、被災した学校再建のクラウドファンディングに全額寄付しました。スタディツアーに参加したメンバーで立ち上げたクラウドファンディングは目標100万円を達成し、2026年6月、サイクロンに負けない新しい校舎が建ちました。

私は、このプロジェクトで多くの方々の温かい思いやりに触



れました。一つひとつの支援にバングラデシュのこどもたちのことを思う気持ちが込められていることを実感し、その気持ちと自分の思いが重なり、取り組みをやり遂げたいと思い、活動を進めました。こどもたちの置かれている環境を知ってもらうための工夫や、自分の思いを多くの人に伝える経験で大きく成長し、自信を得ることもできました。この経験をきっかけに2026年2月には山梨英和大学インドネシア異文化体験プログラムに参加し、新たなこと、未知なることに積極的に挑戦する姿勢を身につけ、学びを広げることができました。

学生チャレンジプロジェクトは、大学にいながら世界に目を向け、「こどもたちのために何かしたい」という思いを実現することができ、私にとって充実した大学生活の礎となりました。

学生チャレンジプロジェクト

らいくん文庫～本で人と人をつなぐ～

4年 齋藤 彩夏

私たち附属図書館学生協働サークルLIKEは、司書の方々と協力し、「多くの人に本を好きになってもらいたい」という思いで読書推進活動に取り組んでいます。昨年度は、学生が主体的に企画・実践する「学生チャレンジプロジェクト」に参加し、「らいくん文庫」として3つの企画を実施しました。

1つ目は図書館フェスティバルです。学園祭と同時開催した本会では、ラッピングした本のキーワードを表示して、直感的に選べるように工夫をした古本販売や、「インド刺繍リボンの手作りしおり」、図書館マスコット「らいくん」のグッズ販売を行いました。学内外の多くの方に興味を持っていただきとても嬉しかったことを覚えています。また、体験企画として実施した「紙刺繍でしおり作り」では、子どもから大人まで

楽しめるよう試作を重ね、多くの参加者の笑顔を見ることができました。

2つ目は柳正堂書店イオンタウン山梨中央店で開催したクリスマス会です。絵本の読み聞かせとクリスマスカード作りを実施し、読み方や話し方を工夫しながら練習を重ねました。本番では子どもたちが夢中になって参加する姿が見られ、保護者からも好評をいただき、読書の楽しさを伝えることができた実感しました。

3つ目は山梨市立図書館との連携展示です。「富士山の日」をテーマに、小説や図鑑、写真集、絵本など幅広いジャンルの本を選書しました。展示後すぐに、多くの貸出があると聞いた時は、私たちが選書した本が利用者に届いていること

を実感できました。

これらの活動を通して、私たちは、紙の本には、人と人を直接つなぐ力があることを改めて感じました。企画の準備や運営では多くの課題もありましたが、仲間と共に悩み、形にする過程そのものが、私たちを内側から成長させてくれたと感じています。今後も、本を読む人には更に本を好きになってもらい、普段読まない人には本に親しむきっかけを届けられるよう、読書推進活動を続けていきます。



学生チャレンジプロジェクト

農業廃棄物に新たな価値を

私たちは昨年度、「学生チャレンジプロジェクト」に応募し、「農業廃棄物活用」をテーマに取り組みました。この学生チャレンジプロジェクトは、学生が自ら課題を見つけ、企画の立案から実践まで主体的に取り組むことを目的としたプロジェクトです。私たちにとって、自分たちで一から企画を考え、それを形にしていく経験は初めてであり、大きな挑戦でもありました。

このテーマを選んだきっかけは、幼い頃から身近にあった農業の現場で、市場に出回らない農作物や収穫後に残る茎や葉など、多くの農業廃棄物が処分されている現状を見てきたことです。本来は自然の中で育まれた資源であるにもかかわらず、不要なものとして扱われていることに疑問を抱き、「見方を変えれば新たな価値を生み出せるのではないか」と考えたことが活動の出発点となりました。

まず、地域の農家の方々にご協力いただき、聞き取りを実施しました。どのようなものが廃棄されているのか、処分にはどのような負担があるのか、農家の方々がどのような思いを抱えているのかを直接伺ったことで、資料やデータだけでは分からない現場の実情を知ることができました。また、「活用できるなら活用したい」と考えている農家の方が多いことも分かり、自分たちの活動が地域の課題解決につながる可能性を感じました。

4年 福田 千宝

その後、和紙会社の協力を得て、農業廃棄物から繊維を取り出し、和紙づくりに挑戦しました。素材ごとの特徴を確かめながら何度も試作と改良を重ねた結果、廃棄されるものでも工夫次第で新たな資源として活用できる可能性があることを実感しました。

この活動を通して最も強く感じたのは、「行動すること」の大切さです。一步踏み出したからこそ、多くの方との出会いや新たな発見があり、頭の中で考えているだけでは見えなかった課題や可能性に気づくことができました。この経験を生かし、これからも身近な課題に目を向け、自ら考え、行動しながら地域や社会に貢献できる人でありたいと思います。



新任教員紹介

自己紹介…私のことを
学生に聞きました。

教授 三國 牧子



「Learning by doing」それが三國先生の心理演習の授業です。先生が「教壇に立つて」講義をしたのは前期で一度だけ！一方、私たち学生は第1回の授業から、右も左も分からないまま一対一の心理面接演習に臨みました。もちろん、毎回「壁」にぶつかります。しかし先生はその瞬間を見逃さず、まるでスッと手を差し伸べるように、豊富な経験に基づくアドバイスや疑問への丁寧な応答で私たちを次の扉へ導いてくださいます。私たち一人ひとりが感じたことに耳を傾け、その思いを丁寧に受け止めてくださいます。その安心感が、私たちに「もう一度やってみよう」という勇気を芽生えさせます。授業の最後は、全員で円形に座りその日の学びを共有します。この時間は、自身の成長を実感するとともに、先生が一人ひとりを温かく見守ってくださっていることを感じられる大切な時間です。

心理演習の授業は難しいですが、海外でのご経験や捜査協力の裏話などもユーモアを交えた話が、毎回楽しみです。カウンセリングを手漕ぎボートに例えていました。オールを握るのはクライアント。カウンセラーにできることは、クライアントが安心してオールを握れるように頑丈なボートを作ることだと。そのとき私は、先生と学生の関係も手漕ぎボートのようなのだと思いました。学生は自らオールを握るが、真っ直ぐ進むどころか、ぐるぐる回ったり、バランスを崩して水に落ちそうになる。そんなボートに一緒に乗ってくださる先生はさぞかし大変だろうが、同時に、自分の正解は自分で見つけるしかないことを私たちに気づかせてくれる。そんな先生に終始励まされながら、仲間たちと勉強しています。

先生の授業で学べることはとても多く、毎回勉強になることばかりです。それに加えて、授業時間以外でも相談に乗ってくださったり、廊下でお会いした際に声をかけてくださることがとても嬉しく、先生はいつも学生に寄り添ってくださっていると感じています。そうした日々の関わりがあるからこそ、私たちは安心して学び、お互いに学びを深められているのではないかと思います。

私はこれからも学生たちと互いに学び合いながら、過ごしていきたいと思えます。

キリスト教を
一つの窓として

准教授 高 誠



本年4月より山梨英和大学に着任しました高誠です。これまで長く教会での働きに携わり、大学ではキリスト教科目を担当してきました。本学では宗教主任・チャペルセンター長も務めています。山梨は私にとって新しい土地ですが、四方を山々に囲まれた風景と、地域の方々の穏やかな人柄に触れ、親しみを感じています。

私がこれまで取り組んできた分野は、実践神学とキリスト教教育です。とりわけ現代社会における宗教性、人間の尊厳、自由と責任、そして日本文化の中でキリスト教がどのように受け止められるのかに関心を持っています。宗教を信仰の問題としてだけではなく、社会や文化、人間の生き方を形づくるものとして考えることが主なテーマです。

授業を通して感じるのは、学生たちが率直で、それぞれの経験や関心から真剣に学ぼうとしていることです。キリスト教を一つの窓として宗教と思想を学ぶことは、自分自身を深く見つめると同時に、自分とは異なる他者を理解することにもつながります。学生一人ひとりの考えを尊重しながら、自分を大切に、同じように他者を大切にできる、愛ある人へと成長していくことを支えていきたいと思えます。

着任のご挨拶

准教授 加藤 仁



この度、山梨英和大学に着任いたしました、加藤仁と申します。大学学部では、ゼミ科目および教養科目以外には前期に「公認心理師の職責」、「教育・学校心理学」を担当し、後期は「心理学実験」を担当予定です。また、実習は「心理実習ⅡA」、「心理実習ⅡB」を担当しています。大学院では、「臨床心理実習ⅠB」、「臨床心理実習ⅠDC」、「臨床心理実習ⅠDD」、「臨床心理実習Ⅱ」を担当しています。

私の専門分野は、パーソナリティ心理学・社会心理学・臨床心理学です。心理臨床実践としては、これまで、学校現場におけるスクールカウンセラーとして心理的支援に携わってまいりました。子どもたちが抱える多様な心の問題に対し、学校や関連機関といかに連携し、最適な支援体制を構築していくかについてもアプリ開発の研究を進めています。現代社会において心のケアの重要性はますます高まっており、これまでの経験を活かし、現場で求められる実践的な知識とスキルを学生の皆さんに分かりやすく伝えていきたいと考えております。

山梨県での生活は私にとって初めての経験となりますが、雄大な山々の景色や豊かな自然環境に日々心を癒されております。美味しい果物など魅力に溢れるこの地で、これから少しずつ県内を巡り、山梨の歴史や文化への理解も深めていきたいと楽しみにしております。

授業や実習においては、単に専門知識を身につけるだけでなく、他者の心に寄り添い、共に考え抜く姿勢を大切にしようと考えています。特に心理専門職を目指す学生には、自らの心と向き合うプロセスも重要です。一人ひとりの個性と成長の歩みを尊重し、彼らが豊かな人間性を備えた社会人へと成長できるよう、全力でサポートしていく所存です。

最後になりますが、学生たちが充実したキャンパスライフを送ることができるよう、後援会の皆様の多大なるお力添えがあってこそ深く感謝申し上げます。今後とも、本学の教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

山梨英和大学で紡ぐ
新しい物語

専任講師 伊野波 優美



今年度より専任講師として着任いたしました。伊野波優美と申します。よろしくお願いたします。担当科目は「日本語」および「日本文学史」「近現代文学論」です。専門は日本文学（近現代沖縄文学）ですが、実務家教員として国内外の大学で日本語を教えてきました。

山梨英和大学には2024年度から非常勤講師として勤務しており、東京から週1回、山梨に通う日々を送っております。今年からは県内に移住し楽しい毎日を過ごしております。私は沖縄の出身で、山梨とは対照的な土地で育ちました。日本の南にある小さな島で水平線に囲まれて過ごしていた頃、「富士山」という写真やイラストでしか見たことがない日本のシンボルを職場の窓から眺める日が来るとは夢にも思いませんでした。

私の専門とする「近現代沖縄文学」には、土地の記憶やアイデンティティが色濃く反映されています。沖縄というルーツを持ち、東京で日本語教育に従事してきた私にとって、この山梨という地は、言葉と文化の重なりを再考する新たな場です。文学は、言葉を通して自分とは異なる他者の内面や、特定の土地に根ざした時間を追体験させる旅路そのものです。留学生を含めた山梨英和の学生の皆さんに、「日本語」と「文学」を通じて、多角的に自らの考えを構築するきっかけとなるような授業を提供できればと考えています。

これまでの経験を踏まえつつ、この山梨という地でしか見えない風景や、ここだからこそ響く言葉の深みを探究していきたいと思っています。教室内外での対話を通じ、学生一人ひとりが「言葉」という武器を磨き、自らの世界をより広く、鮮やかに更新していく。そんな学びの時間を共に創り上げていけることを心から楽しみにしています。山梨英和大学という新しい拠点から、皆様と共に歩んでいけることを心より感謝申し上げます。

教員紹介



学長
塚本 俊也



教員情報



英和の学びの
案内人



副学長・人間文化学部長
教授 難波 道弘



副学長
教授 井上 征剛



人間文化研究科長
教授 佐柳 信男



臨床心理学専攻長
教授 小林 真理子



宗教主任 准教授
高 誠



教授
李 尚珍



教授
山本 明歩



教授 (特任)
黒田 浩司



教授 (特任)
小林 一之



教授
三國 牧子



准教授
新居 みちる



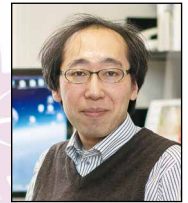
准教授
加藤 仁



准教授
桑本 佳代子



准教授
杉浦 篤志



准教授
槻舘 尚武



准教授
三井 さや花



専任講師
伊野波 優美



専任講師
大井 奈美



専任講師
河本 稔馨



専任講師 (特任)
高見 研一



専任講師
Danny W. Brown



専任講師
根木 英彦



専任講師
劉 楠



助教
天野 早紀



助教
小田 友理恵

日 時：2026年5月23日(土)15時00分～15時30分

場 所：山梨英和大学 101教室

挨拶：飯島正敏 後援会会長

塚本俊也 後援会名誉会長（学長）

議 事：

1. 2025年度山梨英和大学後援会事業報告について
2. 2025年度山梨英和大学後援会会計決算について
3. 2026年度山梨英和大学後援会役員について
4. 2026年度山梨英和大学後援会事業計画について
5. 2026年度山梨英和大学後援会会計予算について
6. その他

①山梨英和大学後援会会則について

後援会長ならびに事務局から、配布資料に基づき、(1)～(6)までの議案について説明がありました。



2026年度 山梨英和大学後援会事業計画

4月2日(木) 山梨英和大学後援会1年生部会開催
(山梨英和大学入学式後)
会計及び1年生理事選出

5月23日(土) 山梨英和大学後援会理事会・総会 開催
2025年度事業報告・2025年度決算
2026年度役員・2026年度事業計画及び
2026年度予算

8月 会報「かけはし」第55号発行(印刷費他)

9月5日(土) 保護者懇談会
10月31日(土)・11月1日(日)
第25回紅楓祭補助(補助活動補給費)

11月～3月 お弁当購入補助(補助活動補給費)
学生チャレンジプロジェクト補助(補助活動補給費)
就職活動諸費協力金支出(厚生就職費)
大学広報活動費支出(広報補助費)
学生活動場所の設備関係費支出(設備補助費)

3月16日(火) 卒業記念品贈呈(卒業記念品費)

2026年度 山梨英和大学後援会役員名簿

名 誉 会 長	塚 本 俊 也	(学 長)
名 誉 副 会 長	難 波 道 弘	(副 学 長)
	井 上 征 剛	(副 学 長)
会 長	飯 島 正 敏	
副 会 長	池 川 良 樹	宮 城 隆
監 事	藤 巻 英 人	佐 藤 俊 一
会 計	越 山 節 子	—
4 年 理 事	香 山 浩 子	長 田 あ ゆ み
	依 田 京 子	—
	—	—
3 年 理 事	平 井 裕 明	山 田 勝 博
	—	—
	—	—
2 年 理 事	相 原 洋	中 山 耕 史
	小 澤 剛	渡 邊 清 道
	戸 梶 文 恵	—
1 年 理 事	飯 塚 雄 之	芽 場 玲
	佐 野 圭 二	清 水 和 正
	白 砂 健	濱 田 幸 一 郎
	堀 内 い づ み	守 屋 光 啓

※敬称略

2025年度 山梨英和大学後援会決算書

収入の部 (単位：円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
前年度繰越金	5,954,154	5,954,154	0	
前期末未収入金額	0	0	0	
前 期 会 費	4,660,000	4,650,000	10,000	@10,000×465名
後 期 会 費	4,460,000	4,530,000	△ 70,000	@10,000×453名
雑 収 入	10,084	11,951	△ 1,867	利息
合 計	15,084,238	15,146,105	△ 61,867	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会 議 費	15,000	19,485	△ 4,485	理事会・総会茶菓子代
消 耗 品 費	30,000	0	30,000	
用 品 費	70,000	0	70,000	
通 信 費	180,000	124,995	55,005	理事会・総会案内郵送代、会報かけはし郵送代 他
印 刷 費	300,000	194,590	105,410	会報印刷代
奨 学 費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	932,000	930,000	2,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×500名)
補助活動補助費	4,532,000	4,309,132	222,868	紅楓祭補助(@1,000×519名)学食運営費補助(売店(コンビニ)運営費補助、学生チャレンジプロジェクト活動補助)
厚生就職費	1,000,000	1,000,000	0	就職活動諸費協力金
広報補助費	1,000,000	1,000,000	0	大学広報活動補助
修繕補助費	700,000	700,000	0	
福 利 費	70,000	0	70,000	弔慰金なし
卒業記念品費	429,200	391,930	37,270	卒業記念品(150個)
寄 付 金	0	0	0	
雑 費	20,000	7,495	12,505	かけはし学生執筆謝礼(2名) 他
予 備 費	70,000	0	70,000	
次年度繰越金	5,736,038	6,468,478	△ 732,440	
合 計	15,084,238	15,146,105	△ 61,867	

2026年度 山梨英和大学後援会会計予算書

収入の部 (単位：円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
前年度繰越金	6,468,478	5,954,154	514,324	
前期末未収入金額	0	0	0	
前 期 会 費	4,390,000	4,660,000	△ 270,000	@10,000×439名
後 期 会 費	4,280,000	4,460,000	△ 180,000	@10,000×428名
雑 収 入	16,433	10,084	6,349	(2026年5月1日現在普通預金金利0.3%)
合 計	15,154,911	15,084,238	70,673	

支出の部 (単位：円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
会 議 費	20,000	15,000	5,000	理事会・総会茶菓子代
消 耗 品 費	30,000	30,000	0	ハガキ用紙、角2封筒代(2,000枚)他
用 品 費	50,000	70,000	△ 20,000	
通 信 費	170,000	180,000	△ 10,000	理事会・総会通知郵送代(@85*462名)後援会報郵送代(@270*439名) 他
印 刷 費	250,000	300,000	△ 50,000	後援会会報印刷代(20万)、資料印刷代 他
奨 学 費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	878,000	932,000	△ 54,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×439名)
補助活動補助費	1,100,000	4,532,000	△ 3,432,000	紅楓祭(52.6万@1,000×526名)、学生チャレンジプロジェクト(15万)お弁当補助(40万)他
厚生就職費	1,000,000	1,000,000	0	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問・就職強化費)
広報補助費	1,000,000	1,000,000	0	大学広報活動補助
設備補助費	3,600,000	700,000	2,900,000	
福 利 費	70,000	70,000	0	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	375,000	429,200	△ 54,200	卒業記念品@3,000(税込)×125個(前期卒業含む)
寄 付 金	0	0	0	
雑 費	20,000	20,000	0	かけはし学生執筆謝礼 他
予 備 費	70,000	70,000	0	
次年度繰越金	6,521,911	5,736,038	785,873	
合 計	15,154,911	15,084,238	70,673	

2025年度 山梨英和大学設備補助積立金会計決算書

(1) 普通預金の部 収入の部 (単位：円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
前年度繰越金	18,233,564	18,233,564	0	
設備補助積立金(定額繰入)	932,000	930,000	2,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×465名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
預金等利息	30,882	30,117	765	利息
合 計	19,196,446	19,193,681	2,765	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替)定期積立金設定日:2009年5月21日定期預金金額:3,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	19,196,446	19,193,681	2,765	
合 計	19,196,446	19,193,681	2,765	

(2) 定期預金の部 (単位：円)						
預入日	満期日	金 額	自動継続金額	利 息	利息合計	摘 要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	(預金期間年利率0.2%)
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	(預金期間年利率0.06%)
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	(預金期間年利率0.025%)
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	(預金期間年利率0.025%)
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	(預金期間年利率0.025%)
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	(預金期間年利率0.025%)
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	(預金期間年利率0.025%)
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	(預金期間年利率0.01%)
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	(預金期間年利率0.01%)
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	(預金期間年利率0.01%)
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	(預金期間年利率0.002%)
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	(預金期間年利率0.002%)
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	(預金期間年利率0.002%)
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	(預金期間年利率0.002%)
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	(預金期間年利率0.002%)
2024年5月21日	2025年5月21日	8,029,360	8,031,060	1,700	31,060	(預金期間年利率0.002%)
2025年5月21日	2026年5月21日	8,031,060	8,049,763	18,703	49,763	2024年5月21日(満期日)(※)

※ 預金期間年利率0.275%

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合) (単位：円)				
区 分	予 算	決 算	差 異	摘 要
普 通 預 金	19,196,446	19,193,681	2,765	
定 期 預 金	8,032,760	8,049,763	△ 17,003	2026年5月21日(満期日)(※)
合 計	27,229,206	27,243,444	△ 14,238	

※ 預金期間年利率0.275%

2026年度 山梨英和大学設備補助積立金会計予算書

(1) 普通預金の部 収入の部 (単位：円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
前年度繰越金	19,193,681	18,233,564	960,117	
設備補助積立金(定額繰入)	878,000	932,000	△ 54,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×439名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
預金等利息	48,762	30,882	17,880	(2026年5月1日現在普通預金金利0.3%)
合 計	20,120,443	19,196,446	923,997	

支出の部 (単位：円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替)定期積立金設定日:2009年5月21日定期預金金額:3,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	20,120,443	19,196,446	923,997	
合 計	20,120,443	19,196,446	923,997	

(2) 定期預金の部 (単位：円)						
預入日	満期日	金 額	自動継続金額	利 息	利息合計	摘 要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	
2024年5月21日	2025年5月21日	8,029,360	8,031,060	1,700	31,060	
2025年5月21日	2026年5月21日	8,031,060	8,049,763	18,703	49,763	
2026年5月21日	2027年5月21日	8,049,763	8,068,509	18,746	68,509	2027年5月21日(満期日)(※)

※ 預金期間年利率0.275%

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合) (単位：円)				
区 分	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
普 通 預 金	20,120,443	19,196,446	923,997	
定 期 預 金	8,068,509	8,032,760	35,749	2027年5月21日(満期日)見込額(※)
合 計	28,188,952	27,229,206	959,746	

※ 預金期間年利率0.275%



9月 24日 後期・第3クォーター授業開始
後期始業礼拝

10月 14日 半日修養会(1・2時限通常授業なし)
31日 学園祭(紅楓祭)

11月 1日 学園祭(紅楓祭)
19日 第3クォーター授業開始
24日 クリスマスツリー点火祭

12月 11日 クリスマス礼拝(1・2時限通常授業なし)
成績発表(第3クォーター科目)
25日 一斉休暇(学校閉鎖)期間 (1/4まで)

1月 8日 授業開始

2月 22日 成績発表
(通年・後期・第4クォーター科目)

3月 15日 卒業礼拝
16日 学位記授与式

お問い合わせ先 一覧

大学の事務取扱は、その内容により担当部署が分かれています。お問い合わせなどは下記の部署にご連絡ください。

・授業料などの納付金等／大学後援会

学長室
055-223-6020 (代)

・履修登録／授業・試験／成績／教室使用／入学・退学・休学・復学・卒業／
科目等履修生／各種証明書発行

教務部
055-223-6027

・学費等の延納／奨学金／事故・罹災／拾得物・遺失物／クラブ・課外活動／
通学／学生証・学割／留学相談／各種証明書発行

学生部
055-223-6021

・広報活動／入学試験／オープンキャンパス

入試・広報部
055-223-6022

・進路支援・相談／就職支援・相談

進路部
055-223-6028

・心理相談・人間関係相談／学生生活全般

学生相談室
055-222-5640

・定期健康診断／健康相談・応急処置

保健室
055-223-6021

・合理的配慮に関すること

障害学生支援室
055-223-6021

・宗教教育・宗教活動／宗教行事

チャペルセンター
055-223-6023

・メイプルカレッジに関すること

地域連携部
055-223-6034

・図書館に関すること

附属図書館
055-223-6030

窓口業務 8時45分 ～ 16時30分(平日)
土・日・祝日および12月25日、12月28日～1月4日を除く
※夏季休業については事前にお問い合わせください。

山梨英和大学
パンフレット・刊行物

